

◆ 伏流水 ◆

我が国の河川は、深山の山肌から染み出す滴や湧き水が出发点（源流）となります。そして、いくつもの沢や上流域の降水を集めて、急峻な地形を浸食しながら流れ、山間部の出口で河道の縦断勾配が緩くなると、運搬してきた岩石や土砂を堆積させて扇状地を形成します。そのような場所では、河川の流水が河床の下へ浸透し、浅い深度の地下水として水脈を保って流れる場合があります。これを「伏流水（ふくりゅうすい）」といいます。扇状地に限らず、河床の地質や土質が変化する場所、河川横断構造物が設置してある場所でも河川水が地下に潜り込む場合があります。この「伏流水」の特徴としては、地中を流れる際、自然のろ過が行われるため、河床上を流れる表流水（河川水）に比べて濁度など水質が良好で安定しています。また、地下を流れることから外気温の影響を受けにくく、河川水より冬は温く、夏は冷たいという性質があります。



伏流水の湧出場所

淀川水系でも三川のそれぞれの中流部や三川合流付近でも見られ、河川の岸寄りに湧出して、ワンドや細流、池などを形成しています。夏場にその湧出箇所に潜ると、その透明度の高さ、水中の美しさに圧倒されます。心地よい冷水の中、しばし時間を忘れて水中空間の美を楽しんでしまいます。

もちろん魚介類にとってその利用価値は高く、夏場は本流の高水温を逃げる場所や出水時の避難場所、また幼稚魚期の成育場所、冬場の越冬場所としても利用されています。局所的な狭い場所でありながら、おびただしい数の生物が生息しています。つまり「伏流水」が湧出する場所は、河川の生物多様性を維持し、生物資源量を保持する重要な環境となっているのです。

環境省 環境カウンセラー
NPO法人 nature works

池田 哲哉

水辺の博物誌



あと一步で国蝶に選ばれなかった渡り蝶

アサギマダラ *Parantica sita*

淀川水系の支流などで、夏にアザミの花のまわりで観られるアサギマダラ。その名のとおり美しい浅葱色の模様がある大型の蝶です。秋頃、日本本土から遠く離れた南西諸島や台湾まで旅をする渡り蝶として有名ですが、一部の個体は初夏頃から逆コースで日本に渡って来るとも知られています。ふわふわと舞い人を恐れないため人気が高く、日本昆虫学会による国蝶選定で候補となったのですが、最終的にはオオムラサキに一步届かなかったようです。また、幼虫時に食草となるカガイモ科の植物から蓄えたアルカロイド系の強毒をもっています。成虫になっても体に蓄積されており、派手で美しい模様は有毒を知らせる警戒色でもあります。（画/弘岡知樹）



来た・見た・聞いた 淀川雑記帳



私が事務局をやっているNPO法人が10周年を迎えた。さまざまな人々と生物と関わり合ってきたが、何事も継続させるには気力と努力だけでなく、楽しさや公正さが必要だ。さて、国土交通省の「河川協力団体制度」と言うものをご存知だろうか。河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等の民間団体に対して、支援してくれる制度である。河川協力団体として指定され

た団体は、河川敷の清掃、魚類の遡上監視、生物調査、マイ防災マップづくりなどの活動をサポートしてもらえる。活動に必要な河川法上の許可等については、河川管理者との協議の成立をもって足りることになるのだ。地域の自発的な活動がさらにパワーアップするかもしれない。現在、近畿圏では17団体が指定されている。気になる方は検索してみよう。（編集長・石山郁慧）